

チゾールが $32.1 \mu\text{g}/\text{dl}$ と高値を示し、日内変動はなく、Dexamethasone (0.5mg) 抑制試験で抑制されず、腹部 CT にて両側副腎に結節性腫大を認め、Adosterol 副腎シンチで両側副腎に集積を認めたことより Cushing 症候群と診断された。手術目的に当科に紹介され入院し、一期的に内視鏡下両側副腎摘出術を施行した。術後ステロイド補充療法を行い、hydrocortisone: 20mg を維持量として退院した。摘出標本は右副腎: 12g, 左副腎: 150g であり、病理学的に明調細胞主体の過形成であった。

AIMAH の家族内発生は自験例を含め、世界に 3 例である。

10 劇症 1 型糖尿病の 2 症例

— 当科での 1 型糖尿病発症形式の検討を含めて —

鈴木亜希子・長沼 景子・宗田 聡
五十嵐智雄・戸谷 真紀・金子 晋
鈴木 克典・中川 理・相澤 義房
羽入 修*

新潟大学大学院内部環境医学講座
座内分泌代謝分野
新潟市民病院第 2 内科*

1 型糖尿病患者のなかで、きわめて急激にインスリン分泌能が枯渇して発症し、その発症に自己免疫機序の関与の可能性が低い症例が報告され、非自己免疫性劇症 1 型糖尿病 (劇症型糖尿病) と考えられている。今回劇症型糖尿病と考えられる 2 症例を経験したので報告した。

また当院通院中の 1 型糖尿病患者 8 名について発症形式を検討したところ、2 名が劇症型糖尿病と考えられた。劇症型の 2 名は抗 GAD 抗体陰性であり、また DKA で発症しているにも関わらず発症時の平均 HbA1c 5.75 % とほぼ正常であり、これに対し抗 GAD 抗体陽性であった他 6 名の発症時平均 HbA1c は 11.88 % と上昇を認めた。その他劇症型糖尿病症例では、抗 GAD 抗体陽性 1 型糖尿病症例と比較し、診断までの有症状期間が平均 3 日と短く、発症時内因性インスリン分泌能の

枯渇 (尿中 CPR 感度以下) が認められ、発症時の診断に有用と考えられた。

II. 特別講演

「1 型糖尿病に関する最近の知見

～劇症 1 型糖尿病を中心にして～

今川 彰久

大阪大学大学院医学系研究科
分子制御内科学

第 231 回新潟循環器談話会

日時 平成 14 年 7 月 6 日 (土)
午後 3 時～6 時
会場 万代シルバーホテル 5 階
万代の間

一般演題

1 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ - PYP・ ^{201}Tl 心筋シンチグラムが診断ならびに治療効果判定に有用であった心サルコイドーシスの一例

藤井 知紀・兼藤 努・飯野 則昭
岡田 義信・谷 長行

新潟県立がんセンター新潟病院
内科

今回、我々は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ - PYP・ ^{201}Tl 心筋シンチグラムが心サルコイドーシスの診断ならびに治療効果判定に有用であった一例を経験したので報告する。症例は 62 歳の女性。主訴は呼吸困難。既往歴は 26 歳で腸閉塞、60 歳で左膿腎症、糖尿病。兄 2 人に AMI、兄 1 人は VT のため除細動器植込みの家族歴がある。平成 12 年 11 月に眼サルコイドーシス、肺サルコイドーシスを指摘され当科外来で経過観察されていた。平成 13 年 10 月 19 日、重